

① **研究課題名**：脳卒中急性期診療支援システムによる来院-治療開始時間の短縮効果に関する多施設共同前向き観察研究

② **研究の目的**：

脳卒中治療における早期治療開始は喫緊の課題です。名古屋市立東部医療センター（以下 EMC）では、脳卒中発症者の来院から治療までの時間（DNT：Door-to-Needle time）を短縮するため、藤田医科大学と日立製作所との共同研究によって開発されたアプリケーション Task.Calc.Stroke（タスカル）を用いて脳卒中の治療連絡を行うこととなりました。本研究は、このアプリケーション導入により、導入前と比べてどれ程のDNT短縮となるかを調査するものです。

③ **研究期間**：西暦 2019年8月 ～ 2020年6月30日

④ **研究代表者及び研究実施施設**

研究代表者：藤田医科大学 脳卒中科 教授 松本省二

共同研究機関：小倉記念病院、福岡市民病院、済生会福岡総合病院、飯塚病院、京都大学病院、産業技術大学院大学、九州大学、株式会社日立製作所

⑤ **研究の対象**：

- ・後ろ向きコホート群：2016年3月31日から2019年8月（タスカル導入準備完了日）の間、発症24時間以内に EMC に入院した脳卒中の方
- ・前向きコホート群：2019年8月（タスカル導入準備完了日の翌日）から2020年3月31日までに発症24時間以内に EMC に入院した20歳以上の脳卒中の方

⑥ **調査項目**：

入院時の年齢、性別、発症前の状態(modified Rankin Scale; mRS)、身長、体重、高血圧・脂質異常症・糖尿病・脳梗塞・虚血性心疾患の既往歴、内服薬、発症から来院までの時間、来院時の脳梗塞の重症度(National Institutes of Health Stroke Scale; NIHSS score)、頸部・脳主幹動脈の閉塞の有無、rt-PA 投与に伴う出血性合併症の有無、追加の血管内治療の有無、在院日数、退院時の状態(mRS)、DNT、血管内治療を行われた症例については来院から穿刺までの時間、穿刺から再開通までの時間、rt-PA 静注療法の適応を判断するための検査までの各時間(Door-to-Imaging time、Door-to-CBC time、Door-to-PTT time)、発症3ヶ月後の mRS

⑦ **研究の方法**：

研究責任医師/分担医師が対象となる方の診療録より「⑥調査項目」の情報を調査し、REDCap という Web システムに入力します。得られた情報は藤田医科大学で集計・解析されます。

⑧ **研究成果の公開**

研究結果は、学会や学術雑誌にて公表予定です。

⑨ **個人情報の保護**

あなたのカルテ番号とは異なる新たな番号を付番し、その番号を用いて研究に必要な情報収集を行います。このため、個人情報が外部に漏れることはありません。

この研究に参加されたくない（あなたのデータを使ってほしくない）場合は、医療者にその旨をお伝えください。

⑩ 利益相反

本研究に係る利益相反はありません。

⑪ 問い合わせ先

研究事務局	所属	研究責任者
名古屋市立東部医療センター 住所：〒464-8547 名古屋市千種区若水1丁目2番23号	脳神経内科	山田健太郎 TEL : 052-721-7171 (代表)